

浄土真宗本願寺派



国際伝道 その1

本願寺 北米開教区

アメリカ本土に拠点を置く「米国仏教団」が正式に伝道活動を開始したのは1899（明治32）年のことである。当時、在米の日本人は既に2万人を数えていた。その中において、今日まで続く国際伝道という大きな趨勢を生み出す発端となったのは一人の青年、平野仁三郎氏であった。訪日の際に本願寺を訪れ、野外布教を行っていた講師に「是非アメリカの地にも仏教を伝えて欲しい」と懇請したことに始まる。この要請に応え、翌年、本願寺は本田恵隆、宮本恵順の両師を派遣し、現地の宗教事情調査にあたらせた。これを機縁として「サンフランシスコ仏教青年会」が組織された。



北米教団本部

現在では60ヶ寺（5別院を含む）、開教使約45名、護持会員約1万4千名にまで成長を遂げている。

開教使育成や教育機関としての「米国仏教大学院」、また現代社会に対応する伝道方法の構築を目的とした研究機関である「浄土真宗センター」を運営する。



最初の出張所



浄土真宗センター

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要（善教寺本堂）

十月 十六日（水）午後一時半～

\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」（善教寺本堂）

十月二十六日（土）朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 広幡康祐師（呉市安浦町信楽寺）

\*送迎マイクロバスを運行します。

「報恩講」（善教寺本堂）

十二月 二日（月）朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 中村英龍師

（広島市佐伯区湯来町最広寺）

\*お接待当番 柏原地区

\*送迎マイクロバスを運行します。



今後の法要スケジュール